

「やりくり」授業と社会科に対する意識の関連性

福田 仁

鳥取大学附属中学校 社会科

E-mail: fukutaht@tottori-u.ac.jp

Hitoshi FUKUTA (Tottori University Junior High School): Relationship between “managing” lesson and awareness of social studies.

要旨 — 社会科はよく暗記科目と言われることが多い。新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学び、問題解決的な学習など様々な新しいキーワードが提示された。そこで、思考力・判断力・表現力の育成をねらいとした授業を継続的に取り組んだ。授業後に、社会科に対する意識などについてアンケート調査をした。その結果、社会科に対する意識や思考力・判断力・表現力に関わる自己評価において肯定的な回答が増加した。社会的な見方・考え方を働かせることが主体的・対話的で深い学びにつながることを示された。

キーワード — 新学習指導要領, 主体的・対話的で深い学び, 社会的な見方・考え方

Abstract — Social studies are often referred to as memorization subjects. In the new curriculum guidelines various new keywords such as independent, interactive, deep learning, and problem-solving learning were presented. Therefore, I continued to work on classes aimed at developing thinking, judgment, and expression. After class, we conducted a questionnaire survey on awareness of social studies. As a result, positive answers increased in self-evaluation related to social consciousness, thinking ability, judgment ability, and expressive ability. It was shown that exercising social perspectives and ways of thinking leads to proactive, interactive and deep learning.

Key words — new curriculum guidelines, proactive, interactive and deep learning, social perspective/thinking

1. はじめに

近年、急速に社会の状況が変化したり、何が正解か分からない状況でよりよい選択が求められていたり、先の見通しが持ちにくい社会になってきている。習得した知識だけを活用し、1つの正解を求めるだけでは、社会に生きる公民として不十分である。

平成29年に告示された中学校学習指導要領において、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められていると示されている。また、すべての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理されている。3つの柱に沿った

資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからであると示されている。(文部科学省 2018)

つまり、習得した知識を活用し、社会的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら課題を追究していくことで主体的・対話的で深い学びにつながると考える。

そこで、本研究の目的は、思考力・判断力・表現力の育成にむけた授業に継続的に取り組むことが、社会科に対する肯定的な意識や思考力・判断力・表現力の向上につながるかどうかを明らかにすることである。

本校の第2学年の生徒を対象に図1のようなアンケートを行った。大半の生徒が世界や日本のできごとに関心を持っており、社会的な

事象への高さがうかがえる。ただし、新聞を読んだり、ニュースを見たりする割合はおよそ半数程度と低く、さまざまな考え方を取り入れながら、自分の考えを構築することが不十分で、自分の考えだけで完結していることが予想される。また、地理的分野よりも歴史的分野の方を好んでいる生徒の方が若干多くなっている。

図1 生徒アンケート

1. 世界のできごとに興味・関心がある

あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
37.9%	50.8%	9.1%	2.3%

2. 日本のできごとに興味・関心がある

あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
46.6%	41.2%	9.2%	3.1%

3. 新聞を読んだりニュースを見たりする

あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
21.2%	40.2%	30.3%	8.3%

4. 地理と歴史はどちらの方が好きですか

地理	どちらかというと地理	歴史	どちらかというと歴史
10.6%	28.0%	32.6%	28.8%

2. 研究の方法

2.1. 対象と質問項目

鳥取大学附属中学校2年生の4クラス(138名)を対象とした。有効回答は、計129名(93.47%)であった。2021年4月から継続的に非定型問題の学習を授業に取り入れて取り組み、2021年12月に社会科に対する意識や思考力・判断力・表現力に関する自己評価に関する質問紙調査を行った。

質問紙調査における質問項目を表1に示す。

表1 質問項目

項目	質問
意識	・社会科は暗記科目だと思いますか？
思考 判断	・いろいろな角度や立場にたって、ものごとを考えることができますか？ ・友だちの考えを参考にし、自分の考えを持つことができますか？
表現	・自分の考えを整理して説明することができますか？ ・班などのグループで自分の考えを発表することができますか？ ・自分の考えを他者に分かりやすく、まとめることができますか？

調査用紙はそれぞれ4件法(意識の項目については「とてもそう思う」、「そう思う」、「あまりそう思わない」、「まったく思わない」、思考・判断、表現の項目については、「あてはまる」、「少しあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」)で回答させた。

2.2. 授業実践

歴史的分野の第4章『近世の日本』3節「産業の発達と幕府政治の動き」と地理的分野の第3章『日本の諸地域』2節「中国・四国地方」での「やりくり」授業を開発し、実践を行った。

2.3. 歴史的分野での授業実践

主体的・対話的で深い学びを実現する歴史授業づくりとして、梅津(2021)は、次の5点を挙げている。

- ①主題を設定し、単元として授業を構想する。
- ②学習内容として、事象の意味や意義、時代の特色などを捉えた概念的知識を設定する。
- ③学習過程は、子どもが、「歴史的な見方・考え方」である時期や年代、推移、比較、相互の関連、現在とのつながり等に着目して学習問題を見出し、史・資料を活用しながら、思考(考察)したり、選択・判断(構想)したりするように組み立てる。
- ④子どもが思考・判断した結果を、互いに説明したり議論したりする具体的な言語活動を学習過程に組み込んでいく。
- ⑤子どもが課題解決の過程や方法を振り返るとともに、学習の成果と課題を見取り、次の学習の見通しがもてるような学習活動を、単元の学習過程に適時に設定することである。

今回は③に重点を置き、授業開発・授業実践を行った。単元計画を表2に示す。

表2 単元構成

第1時	農業や商業の発達
第2時	交通路の整備と都市の繁栄
第3時	幕府政治の安定と元禄文化
第4時	徳川吉宗の改革
第5時	田沼意次と松平定信の改革
第6時	水野忠邦の改革
第7時	江戸の諸改革のまとめ
第8時	新しい学問と化政文化

座標に表す際には、軸の設定も自分で行うことで、4人の政策を総合的に見て、それぞれの特徴があらわれるようにすることで、視点を持って考察することにつながると考えた。教師から与えられたものに当てはめていくのではなく、自らが試行錯誤しながら考えることが重要であると考えて、この活動を設定した。生徒は、この座標軸の設定に大変苦勞していた。

2.4. 地理的分野での授業実践

地理的分野では、単元のまとめとして身近な地域である鳥取県の改題解決のためのアイデアを考え、提案用ワークシートにまとめる授業を行った。この単元計画を表3に示す。

表3 単元構成

	学習テーマ
第1時	自然環境
第2時	交通網の整備と人々の生活
第3時	瀬戸内と南四国の産業
第4・5時	鳥取県の未来を考える

第4・5時の授業では、中国・四国地方のまとめとして、身近な地域である鳥取県の未来を考える時間を設定した。

課題を教師が提示するのではなく、生徒自らが課題を見出し、その解決にむけたアイデアを考える授業とした。これは、主体的に学習課題を解決する意欲や学習したことを実際の生活に生かそうとする態度を養うことをねらいとしている。

鳥取県が抱える課題を見出し、その課題を解決するためのアイデアを考える授業とした。課題解決のアイデアは一時的なことでなく、持続的なものとするを重要視し、持続可能な社会の在り方について身近な鳥取県で考えることで、自分事として捉えさせるようにした。

授業の内容としては、鳥取県の課題を見つけ、その課題を解決するためのアイデアを考え、以下のようなワークシート(図6)に記入し、提案用のワークシート(図7)にまとめるという内容である。

生徒の多くが鳥取県の課題として、多くが人口減少・過疎化をあげており、そこから派生する産業や経済に関する事象まで広げて捉えていた。

図6 ワークシート

また、鳥取県の状況と似た他県の取り組みを参考にして、課題解決に向かう生徒も見られ、他地域とのつながりを意識し、空間的な広がりを持ち、学習に取り組んでいた。

図7 生徒が作成した提案用ワークシート

2.5. 分析の手続き

社会科に対する意識や思考力・判断力・表現力に関する自己評価に関する質問項目について4件法に得られた回答を1～4点に得点化(あてはまる4点, 少しあてはまる3点, あまりあてはまらない2点, あてはまらない1点)して集計した。なお、「社会科は暗記科目だと思いますか」という意識に関する質問項目は逆転項目(とてもそう思う1点, そう思う2点, あまりそう思わない3点, まったく思わない4点)として集計した。

そして、社会科に対する意識や思考力・判断力・表現力についての平均得点の差を検討した。この検討にもとづいて、非定型問題を中心とした授業実践との関連性について考察した。

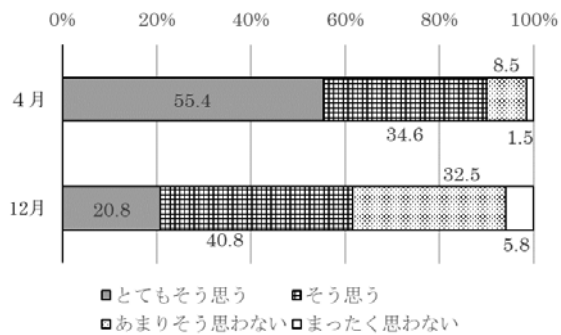
3. 結果と考察

3.1. 質問紙調査の結果

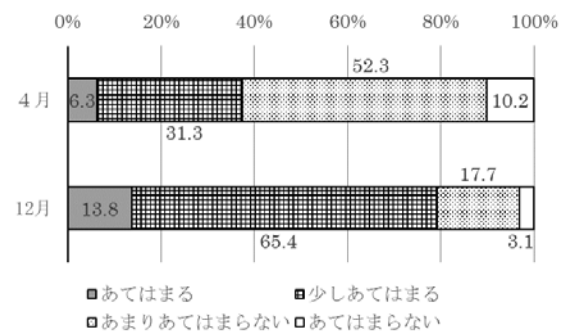
質問紙調査の結果を図8に示す。すべての質問で4月よりも12月において肯定的回答が上

回った。(なお、「社会科は暗記科目だと思いますか?」という質問は逆転項目として扱った。)

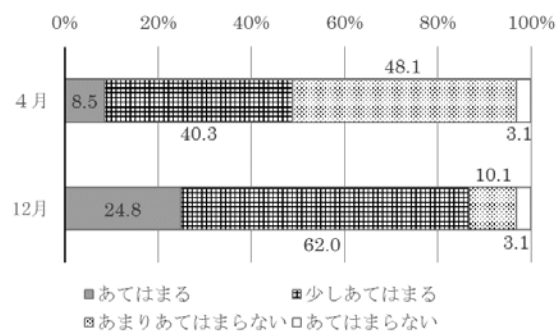
社会科は暗記科目だと思いますか?



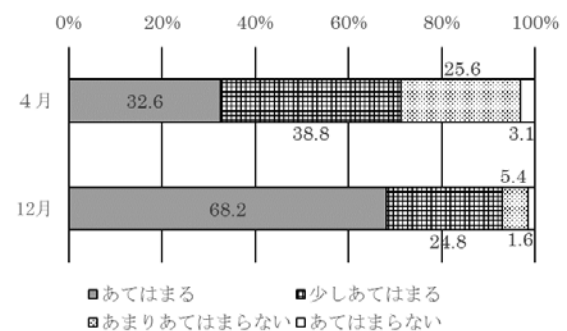
自分の考えを整理して説明することができますか?



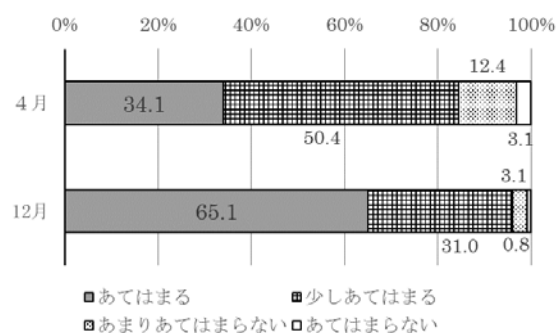
いろいろな角度や立場にたって、ものごとを考えることができますか?



班などのグループで自分の考えを発表することができますか?



友だちの考えを参考にし、自分の考えをもつことができますか?



自分の考えを他者に分かりやすく、まとめることができますか?

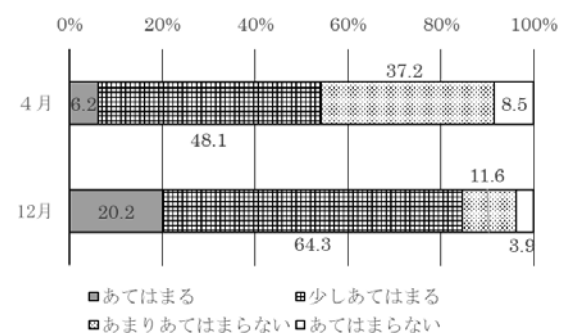


図8 質問紙調査結果

特に「いろいろな角度や立場にたって、ものごとを考えることができますか?」「自分の考えを整理して説明することができますか?」と

いう質問では、4月よりも12月は、肯定的回答が2倍近く増加した。

表 4 社会科に関する意識や思考力・判断力・表現力に関わる自己評価の変化

質問	4月		12月		t 検定
	平均	S D	平均	S D	
社会科は暗記科目だと思いませんか？	1.558	0.714	2.217	0.816	$t_{(128)}=9.452^{**}$
いろいろな角度や立場にたって、ものごとを考えることができますか？	2.543	0.693	3.085	0.682	$t_{(128)}=9.8539^{**}$
友だちの考えを参考にし、自分の考えを持つことができますか？	3.140	0.744	3.597	0.591	$t_{(128)}=8.5316^{**}$
自分の考えを整理して説明することができますか？	2.349	0.754	2.891	0.650	$t_{(128)}=9.2567^{**}$
班などのグループで自分の考えを発表することができますか？	3.008	0.840	3.597	0.665	$t_{(128)}=9.9628^{**}$
自分の考えを他者に分かりやすく、まとめることができますか？	2.519	0.738	3.016	0.693	$t_{(128)}=8.8388^{**}$

n=129, **:p<.01

各質問項目の回答結果を集計したものと t 検定の結果を表 4 に示す。

すべての質問について、4月と12月の間に有意な差が認められた。「社会科は暗記科目だと思いませんか？」： $t_{(128)}=9.452$, $p<.01$, 「いろいろな角度や立場にたって、ものごとを考えることができますか？」： $t_{(128)}=9.8539$, $p<.01$, 「友だちの考えを参考にし、自分の考えを持つことができますか？」： $t_{(128)}=8.5316$, $p<.01$, 「自分の考えを整理して説明することができますか？」： $t_{(128)}=9.2567$, $p<.01$, 「班などのグループで自分の考えを発表することができますか？」： $t_{(128)}=9.9628$, $p<.01$, 「自分の考えを他者に分かりやすく、まとめることができますか？」： $t_{(128)}=8.8388$, $p<.01$)

3.2. 実践授業と社会科に対する意識の関連性

表 5 に社会科に対する意識や思考力・判断力・表現力に関わる自己評価の変化を示す。

「社会科は暗記科目だと思いませんか？」という社会科に対する意識に関する質問では、社会科は暗記科目とっていない生徒は4月当初は約10%の生徒だったのが、12月には約35%となり、約3倍以上となった。これは、日々の授業で、ただ単に知識を問う授業ではなく、既習事項などを基にして、学習課題を解決する授業の成果だと思われる。しかし、4月に社会科は暗記科目だと思っている生徒のうち、12

月に暗記科目だと思わなくなった生徒は30%未満であり、プラスの意識の変化があまり見られなかった。これは一朝一夕には、意識が変化しにくいことや社会科が他の教科に比べると重要語句などの数が多いことが考えられる。また、授業だけでなく、テストの問題も知識を問う問題中心ではなく、思考力・判断力・表現力を問う問題を中心にしていく必要があると感じた。

思考・判断に関する「友だちの考えを参考にし、自分の考えを持つことができますか？」という質問は4月当初から84%の生徒が肯定的であった。授業後の振り返りには、これは、「班活動で話し合っ、たくさんの意見が出たので、自分の意見だけでなく、他の意見も取り入れられた。」「自分ではこれが1番いいと思って、他の人は重視するところが違って面白いと思った。」というような記述が多く見られ、班活動で友だちの考えを聞き、話し合うことに抵抗なく、良い雰囲気で行うことができていることが言える。また、社会科の授業だけでなく、日ごろの学級活動などでも人間関係の良さにも起因するのではないかと考えられる。

「いろいろな角度や立場にたって、ものごとを考えることができますか？」という質問は、4月当初は肯定的回答と否定的回答がほぼ半数であったのが、4月に否定的回答をした生徒の約75%が肯定的回答へと変化している。これ

は、授業で資料などをもとに学習課題を解決する授業に多く取り組んだ成果と言える。これは授業後の生徒の振り返りにも「この授業では時代背景と結び付け、幕府や武士、町人、百姓などのさまざまな人物の視点で見ることが大切だと思いました。」「1つだけの視点では考えにくい問いで、多くの視点から物事見て考えなければならなかったのが、とても面白かった」といった記述が見られたことから授業が生徒の思考・判断に関わる自己評価を肯定的に変化させたことに関連性があると言える。

表現に関する「自分の考えを整理して説明することができますか?」、「自分の考えを他者に分かりやすく、まとめることができますか?」

表5 社会科に対する意識や思考力・判断力・表現力に関わる自己評価の変化

質問	4月回答(人)		12月回答(人)	
社会科は暗記科目だと思いますか?	肯定的	116	肯定的	82
	否定的	13	否定的	34
いろいろな角度や立場にたつて、ものごとを考えることができますか?	肯定的	63	肯定的	1
	否定的	66	否定的	62
友だちの考えを参考にし、自分の考えを持つことができますか?	肯定的	109	肯定的	50
	否定的	20	否定的	16
自分の考えを整理して説明することができますか?	肯定的	49	肯定的	109
	否定的	80	否定的	0
班などのグループで自分の考えを発表することができますか?	肯定的	92	肯定的	15
	否定的	37	否定的	5
自分の考えを他者に分かりやすく、まとめることができますか?	肯定的	70	肯定的	47
	否定的	59	否定的	2
			肯定的	55
			否定的	25
			肯定的	91
			否定的	1
			肯定的	29
			否定的	8
			肯定的	70
			否定的	0
			肯定的	39
			否定的	20

という質問では、他の項目の質問に比べ、4月の否定的回答が12月に肯定的回答となった割合は、4月の否定的回答者の約66%~68%と一番少ない。これは授業で、思考・判断に重点を置き、学習課題を工夫したやりくり授業に取り組んだが、それが十分な表現力の育成につながっていない結果となった。学習活動の1つとしてアウトプットすることを意識的に取り組む授業が鍵を握ると思われる。

4. まとめと今後の課題

4月と12月の回答を比較し、すべての質問で肯定的回答の割合が向上し、社会的な見方・考え方を働かせる授業の結果、思考力・判断力・表現力の育成につながった。これは、同時に主体的・対話的で深い学びにもつながったと言えるのではないだろうか。そして、3つの柱に沿った資質・能力の育成に、やりくり授業が大きな効果を上げることがわかった。

今後の課題としては、授業だけではなく、評価もあわせて研究を進めていく必要があると感じた。

参考文献

- 文部科学省:中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説社会編, 東洋館出版社, (2018)
- 梅津正美:「主体的に学習に取り組む態度」をいかに育て、どうとらえるか-活動の設定の仕方と運用の手引き, 教育科学社会科教育, 12月号・742号, 明治図書, pp.18-21 (2021)